

ふりがな 氏名	ごとう きさと	都 道 府 県	東京都	
	五島 希里			
所属/肩書	港屋株式会社 代表取締役・プロフェッショナルコーチ			
私のESD活動	社会課題の担い手育成×ファンドレイジング			

活動の概要

大学時代に ESD を卒業論文テーマに選びました。現在は起業して実践中ですが、当時より取り組みの根本にある問いは「どうしたら、生まれた環境(=格差)を乗り越えて、自分の才能を発揮できる人が育つのか?」というものです。これに対し、現在「スカラシップヤード」という事業(以下①②)を通して実践しています。

①自分の才能を発揮できる人を育てるには?

私立中高の ESD 推進委員会等と協力し、「総合的な学習の時間」等の中で、生徒が自分の関心事や社会課題を SDGs や ESD の観点から考え、自分たちなりの取り組み案(プロジェクト)を創出するサポートを行っています。この過程では、コーチングを用いて個々の強みをチームワークに活かしたり、ルーブリックやポートフォリオを作ったり、教員の授業支援や学び合いの支援等も行っています。

②生まれた環境を乗り越えるには?

上記プロジェクトが資金を理由に制限されることのないよう、各学校専用のクラウドファンディングサイトを貸出し、プロジェクトへの共感によって寄付を集められる仕組みを作りました。通常クラウドファンディングサイトでは、手数料が全て運営会社に入りますが、それらが学校の奨学金となるよう設計し、生徒がプロジェクトにチャレンジすればするほど、奨学金を生み出せる仕組みとしています。またそれにより、プロジェクト内容及びその成否が、予定不調和なりアリティあるものとなります。

○「港屋株式会社」 <http://www.minatoya-jpn.com/>

○「スカラシップヤード」 <https://scholarshipyard.com/>

今後の活動や協働への展望

■スカラシップヤードを通じた活動展望

現在取り組んでいる「プロジェクト×学校のファンドレイジング(=スカラシップヤード)」の活動については、私自身が事業責任を持っているため、新たな視点や方策をすぐに取り入れ、様々なステークホルダーと組みながら実行することができます。また、ユネスコスクールなども含む中学校・高等学校と授業等でご一緒しているため、その事業や授業を通して、対話の場や活動の機会を作ることができると考えています。そういった活動の中で、よい事例やぜひ全国へ広めたい取り組みが出てきた際には、ESD 日本ユースの一員として情報共有していきたいと考えています。

■個人としての活動展望

大学生時代に卒業論文執筆及びそれまでの研究題材として ESD を選びましたが、当時(2007)から国際情勢及び国内の状況は大きく変化しています。執筆当時より、「企業の立場から、より多くの市民に働きかける活動として実践する」ことを目標としておりましたが、現在、実際に社会で実践できる立場となり、改めてアカデミックなアプローチと実践の両側面が必要であると感じます。事業実践との時間配分が重要ですが、大学院等でのより深い研究も展望しています。